

Case 14

福祉業界へ進出目指す企業との共同による 新しい福祉ビジネスに関する調査研究プロジェクト



◀ 第1回福祉ビジネス研究会の様子

Step 1

株式会社そらの佐山正社長は、ご自身のお母様の介護経験から、これからは高齢者が本当に必要としている介護サービスを提供することが必要と考え、新規福祉ビジネスを模索していました。事業立ち上げにあたっては、情報収集やビジネスモデルの検証等が必要となりますが、自社内では十分に対応することは難しく、そこで、人間福祉学科に相談が寄せられました。



Step 2

福祉事業を取り巻くさまざまな立場の関係者と、これから福祉サービスを受けることになる、あるいは、受けている当事者である高齢者をメンバーに含む研究会を立ち上げました。第1回研究会では、現場の声や外部者の福祉業界に対する意見を聞き、その後、事例研究として自宅開放型のデイサービスの視察を行い、高齢者に求められるサービスについて意見交換を行いました。



Step 3

学生による家族への聞き取り調査や小規模デイサービスへのアンケート調査等を実施し、また、これまでの検討も踏まえ、引き続きお客様に求められる福祉ビジネスの形を検討しています。株式会社そらでは、2011年9月に介護タクシー事業の認可を得て、同社の第一弾事業として開業しました。これまでの研究成果を活用した事業展開を目指します。



topics

現場や異業種の声を聞き、先進事例を参照するなど大学ならではのネットワークを活用し、福祉ビジネスの形を検討することが本連携の特長です。企業とのパートナーシップにより、行政だけでは担えない新しいサービスの立ち上げに大学の知恵が活用されます。

data

- パートナー 株式会社そら
- 担当教員 西口守教授
(現代生活学部人間福祉学科)
- 実施期間 2011年4月～2012年3月